

□ 平成27年度グリーンスクール表彰校の取組（9校）

（1）神戸市立北須磨（きたすま）小学校

「学校と家庭・地域の連携による、自然環境づくりと体験学習の充実」

開校時より、裏山の自然を守り、花壇等の緑あふれる環境づくりを続け、環境を活かした子どもの体験的な学習に力を入れ、環境を保全することや、須磨の一絃琴の伝統文化を守る活動をしている。

学校と家庭・地域の連携による人的な支援体制を構築するとともに、裏山、野外教室、中庭（花壇、樹木、学習園、ビオトープ）、動物舎の環境整備を行った。また、自然体験的な学習の充実を図るため、6年間の育ちを見通し教科領域を関連付け、付ける力を明確にした「北須磨カリキュラム～いのちをつむぐ～」を開発し、各学年で実践している。

こうした活動を通して、自然環境や地域社会に対して児童の関心が高まっている。また、命の大切さや命の関わりについて学ぶことで、環境を守ることの難しさや人と自然の共生の難しさも感じられるようになっている。



（2）三田市立学園（がくえん）小学校

「育て・守り・観察しよう ～学園緑の回廊（GGC）～」

平成23年度から中庭の池をビオトープ活動の拠点とするため、児童が、植栽する水草や放流する生き物の為に、外来種の除去を行ったり放流されていた金魚を水槽に移すなど準備に取り組んだ。今年度は、地域ボランティアの方々と共に、池を取り巻く樹木や果樹園、花壇を一体化した「緑の回廊」を作り、ヤゴやかぶと虫の仲間等、多様な生き物を自主的に観察したり、授業でも活用したりしている。

こうした活動を通して、「緑の回廊」は緑を育てる場、緑を守る場、自然観察の場となり、環境問題に関心を持つようになっている。また、保護者には学校だよりを通して「緑の回廊」の紹介に加えて、牛乳パックを収集するなどのリサイクル活動等についても周知することで、環境について対話ができる家庭づくりを推進する機会としている。



（3）たつの市立新宮（しんぐう）小学校

「新宮は人も自然もみんな笑顔のまちへ」

校区は歴史遺産が豊富であり、全校生が校区の自然や歴史遺産を学習教材として、仲間、専門家、地域の方々等、様々な人との関わりの中で、より本物とふれあう体験活動を実施している。この体験を通じて校区を愛し、ふるさとを愛する心を育てている。

5年前から、子どもたちの豊かな心と確かな学びを育むために、5年生は市天然記念物「ムクノキとケヤキ」



の保護活動やPR活動、アオバズクの生態についての調査、3年生は地域の方々とアユの放流や田植え体験を行い、生活科や総合的な学習の時間を核として理科や社会科にも発展させるなど、系統的な学びへとつなげるため学年ごとにテーマを設定し学習している。さらに、委員会活動を効果的に活用し、環境美化への意識を高めている。

こうした活動を通して、子どもたち一人一人に、貴重な歴史の重みや自然の神秘性について考えさせ、また、命の尊さを実感させている。

(4) 豊岡市立城崎（きのさき）小学校

「守れ！ふるさと城崎の自然と環境 知り・学び・考えそして行動」

昭和60年度から取り組んできた小学校の児童会と地域自治会でやるクリーン作戦が、中学校の生徒会のクリーン作戦とタイアップし、「城崎プロジェクトC」と称して、7年前から3者合同の地域クリーン作戦を実施している。また、ラムサール条約認定湿地である「戸島湿地」が学校の近くにあるため、人とコウノトリの共生、人と自然の共生をもとに、コウノトリの生息環境を中心とした戸島湿地の保全活動を行うとともに、絶滅危惧種であるヒヌマイトトンボの生息環境調査等、学年の発達段階に応じた取組を計画的、継続的に実施している。



また、一昨年からは、全学年の環境学習のカリキュラムを校内で見直し、ふるさと教育の視点を持った環境学習カリキュラムの再構築を図っている。

こうした活動を通して、地域を知り児童の郷土を愛する心を育て、自分にできることを考え行動する態度を養っている。また、「ふるさと城崎」の素晴らしさの再発見や環境保全に対する意識の向上により、郷土に誇りを持ち、未来を創造する力を育む教育を推進している。

(5) 篠山市立古市（ふるいち）小学校

「地域と学び地域を学ぶ古市の自然と環境～調べ・親しみ・つなぐ～」

約10年前から全校生で校区にある県立篠山産業高等学校丹南校の生徒が養殖した蛍を武庫川に放流する取組を行っている。3年生の環境体験学習では、自然環境に目を向ける取組を行うため、地域に生息する生き物やその生態系について調べている。4年前からは、地域から提供された篠山の特産品であるヤマノイモの栽培によりグリーンカーテンを作り、その活動が生活環境を快適にする効果的な取組であることについても実感している。



また、緑溢れる自然環境の中でのびのびと活動させたいという地域の方々の願いから、運動場を芝生化した。

こうした活動を通して、生物・水質調査や生態系の変化、環境保全の大切さを児童に感じさせ、身近に生息する生き物を大切にする心を育てている。また、地域の方々との交流を通して、自分たちの学校生活が地域の人たちに見守られていることへの感謝の心も育てている。

(6) 丹波市立遠阪（とおざか）小学校

「遠阪川博士になろう！」

平成15年度から遠阪地域を流れる遠阪川を教材化した自然体験活動を実施し、毎年6月のオープンスクールでは、専門員を招き、遠阪川で「生き物探検活動」を行っている。

4年生は、総合的な学習の時間で「遠阪川博士になろう！」をテーマに指標生物のリサーチ活動を各学期に1回行い、理科や国語科との関連を図りながら、遠阪川の水質調査を行っている。また、「遠阪楽校課外授業」と題し、地域の指導者のサポートにより希少種の保護や自生地の保全活動など、地域総がかりで環境教育に取り組んでいる。

こうした活動を通して、森林と川との関係を理解できたことにより、子どもたちの環境学習に対する興味や関心が高まった。また、「ホテル観察会」や「せつぶん草祭り」などの行事にも家族で積極的に参加するようになり、地域全体でも環境に対する意識が高まっている。



(7) 洲本市立鳥飼（とりかい）小学校

「学校と地域が連携し、ふるさと鳥飼を愛する心を育む環境教育」

3年生、5年生が地域の方を講師に招き、地元農家の田んぼを借りて、土の感触を味わいながら、手作業による「しろかき」等、昔ながらの手作業による田植えを行い、稲を育てるための工夫や苦労などを学んでいる。また、ため池の役割や大切さを学ぶとともに、河川やため池において、仕掛けかごを使つての生物調査や透明度、PH試験などによる水質調査をするなど、自然の中で五感を使った体験活動を行っている。



5年生では鳥飼漁港へ行き、地域の特産であるサワラの栽培漁業の体験を行い、海を守るために藻や海岸の清掃にも取り組んでいる。

こうした活動を通して、米作りにおける水の大切さ、地域の米づくりとため池の関係について学ぶとともに、児童が環境に対する興味関心を高め、身近なふるさとと環境を守ろうとする態度や収穫の喜びと自然に対する畏敬の念を育んでいる。

(8) 淡路市立江井（えい）小学校

「農業体験活動を通して、地域とつながろう！」

農業体験としては、30数年前より児童が毎年サツマイモやジャガイモを学校農園で栽培し、収穫したものを地域の独居老人宅に配布する活動を続けている。また、平成4年からは「土曜ふれあい学習」としてPTAの協力のもと、毎年1月に餅つき体験を全校行事として行うようになり、平成20年から、この餅の材料となるもち米を地域の住民の協力のもと、地域の棚田で生産体験を



行っている。

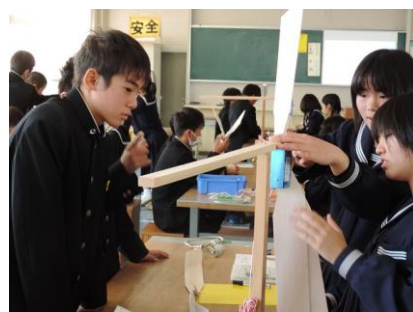
棚田は、面積は狭く、機械が使用しにくいいため、昔ながらの道具を使った「手植え」を行い、稲刈りでは「鎌」を使い、稲を乾燥する際には「ウマ」を作って活動し、昔の農業の大変さを知る機会にもなっている。

こうした活動を通して、自然に目を向けたり、食べ物を残さず食べたり、環境学習に興味を持つ児童が増えている。また、学校が地域のコミュニティの中心となり、ともに美しい田園風景を守り続けようとする態度を養う教育を推進している。

(9) 加古川市立加古川（かこがわ）中学校

「これからのエネルギーと私たちの暮らし」

持続可能な社会を意識させ、自分たちの暮らしへの関心を持たせるため、1年生では、熱帯雨林の減少の原因とその影響を考えることにより、地球温暖化についての学びを深め、地球温暖化を防ぐため自分たちにできる省エネルギーについて考えている。2年生では、日本は多くの資源を輸入に頼っており、エネルギー自給率が6%であることや、様々な発電の仕組みを学んでいる。他教科との関連も図り、発電の仕組みを理解し、蒸気でタービンを回すことにより発電することや発電技術によって変換効率が異なることについて学習している。学習を重ねることにより、手洗い等での節水や使用していない教室の電気を消すといったエネルギーに関する意識の変化が見られるようになってきている。



さらに、生徒がエネルギーをより身近に感じ、自分の将来の暮らしをイメージできるよう、地域の太陽光発電施設の見学、電気代測定や表面温度測定など、体験的な活動から学びを深めている。

今後、エネルギー教育を牽引する生徒のリーダー養成を図るとともに、PTAと連携し、環境問題について家庭や地域に向けて積極的な発信を進める。

□ 平成27年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（4校）

※優秀な取組を進めており、今後の取組が期待できる学校をグリーンスクール奨励賞として表彰しています。

(1) 三木市立志染（しじみ）小学校

「大地の恵みに感謝！ ～志染っ子わくわく農園～」

3年生の総合的な学習の時間において、地域の自然を知り、保全し、未来に伝えていくことを目的に、学校田を主な活動場所としている。地域の方々をゲストティーチャーとして招き、稲作体験やかかし作り、しめかざり作りを行っている。

米作りで経験したことや学び取ったことは、志染っ子フェスティバル（校内学習発表会）で発表し、他学年や地域の方に対し自然を守る啓発活動となった。

こうした活動を通して、米作りを大切にして、「自然と人とのつながり」「人と人とのつながり」を意識し、地域に愛着と誇りを持てる児童を育成している。



(2) 淡路市立生穂（いくほ）小学校

「ふるさと生穂のよさを知ろう ～『生穂探検隊』～」

3年生では、環境体験学習におけるふるさと学習を進める中で、「生穂探検隊」と銘打って学校横を流れる生穂川や里山である雨乞い山の植物と生き物の調査を行ったり、全校生を縦割りにして、「ふるさとオリエンテーリング」を行ったりしている。また、使われていない観察池を利用し、田植えから刈り取りまでの過程を全て自分たちで行う米作り体験を実施している。

また、全校生が学級園で野菜を、花壇で花を育てるなどの活動も伝統的に続け、自分たちで作った野菜を調理して楽しむ食育活動も行っている。

こうした活動を通して、児童には、自然やふるさとを愛し、誇りに思う心が育くまれている。



(3) 尼崎市立南武庫之荘（みなみむこのそう）中学校

「命の循環を体験し、豊かな心を育む環境教育」

校区内にある街路樹の落ち葉がごみとなり、地域住民を悩ませている。このことから総合的な学習の時間や技術・家庭科で、持続可能な社会や循環型社会の構築についての基礎的な知識を身につけさせ、生徒会、厚生委員会、ボランティア部が中心となり落ち葉回収に取り組んでいる。

また、学校内に堆肥化施設をつくり、これまで可燃ゴミとして処分していた落ち葉を、低炭素社会の構築を目指し、全て堆肥にする取組を行っている。環境学習に興味関心の高い生徒に対しては、「循環」をテーマとした体験型の「堆肥作り」、「作物栽培」、「食育」、「エネルギー学習」を行い、人間と自然の調和を実感できる活動に発展させている。

こうした活動を通して、町の現状を知り、自分たちの生きる環境を自ら改善していこうとする心と態度を育てている。



(4) 兵庫県立出石（いずし）特別支援学校

「わたしたちのふるさと ～お米づくりを通して農業と環境～」

豊岡市立いずし古代学習館や地域のボランティアの指導を受けて、1年間の体験を通じた米作りにより、自然環境に興味関心を持たせるとともに、生命を支える米がいかに自然環境と密接に関わっているか学習している。米を収穫し食することで、食文化への関心も高めている。

また、自然豊かなふるさとに改めて目を向け、「調べる」「知る」「まとめる」活動を通じた学習の振り返り、生活に根ざした実際的な取組の発表等、地域の方々へ成果の発信を行っている。

こうした活動から、農家や先人の稲作への工夫と苦勞を学ぶだけでなく、米作りと自然環境の関わりについて考え、収穫の喜びを米作りに関わった方々と共に味わい、感謝する心の育成に努めている。

